令和３年１月15日　発行

農業ふれあい公園だより　No.28

2021
（令和３年）
February

【岩手県立農業ふれあい公園　農業科学博物館】　岩手県北上市飯豊 3-110　TEL 0197-68-3975

ひょうたん池の鴨

公園の紅葉

農業ふれあい公園内には、桜の丘や芝生の広場、ひょうたん池、棚田などがあり、子ども達の遠足や家族のレクリエーションの場としてご利用いただけます。公園の広さは約 17 ㌶(東京ドームの約 3.6 倍)ととても広く、３万本を超える様々な樹木があり、春にはコブシ、オオヤマザクラ、ハクモクレンが、夏にはナツツバキ、アベリア、秋にはジュウガツザクラやマユミなどが咲き誇り、また秋の紅葉など、春から秋まで楽しむことができます。周囲の樹木に囲まれた散策路は、多くの方々にご利用いただいております。

シャクナゲ

ウツギ

コデマリ

公園内には岩手の農業を知ることができる農業科学博物館が設置されています。館内には「農業れきし館」と「農業かがく館」の二つの展示室があり、「農業れきし館」には、かつての農家の暮らしと農作業道具の展示、県内各地の農業と食文化、農業の歴史などを紹介しています。「農業かがく館」には、田んぼの中の世界や野菜や果物の花がわかる巨大な冷蔵庫、牛の体のしくみなどについて楽しく学べるコーナーなどがあります。また、今年はホール内に県産花きのフラワーアレンジメントを展示しました。博物館には、毎年多くの小学生や園児、自治会の皆様に校外学習や遠足、研修などの場としてご利用いただいております。

農業かがく館

県産花きの展示

農業れきし館

農業かがく館

ふれあい公園

農業れきし館

・・・農業科学博物館・ふれあい公園トピックス・・・

親子体験学習会「つばきの実ブローチを作ろう！」

令和２年８月２日（日）

ふれあい公園内のつばきの実を使って「ブローチ」をつくりました。

親子体験学習会「まゆ細工を作ろう！」

令和２年10月４日（日）

カイコのまゆを使って「うさぎ」や「カエル」などをつくりました。

おカイコさん今年も来館

令和２年７月下旬～９月中旬

農業科学博物館では「まゆの糸繰り実演会」と「レトロ発動機実演会」を行いました。

岩手県農業研究センター一般公開デー

令和２年９月４日（土）

北上市地域おこし協力隊により「真綿つくり体験会」を行いました。

「真綿つくり体験」

令和２年10月25日（日）

地元産の稲わらを使って「しめ飾り」をつくりました。

親子体験学習会
「しめ飾りを作ろう！」

令和２年12月20日（日）

お知らせ

◆◇◆ 博物館ご利用案内 ◆◇◆

【開館時間】　９：00 ～ 16：30（入館は 16 時まで）
【休館日】　毎週月曜日（ただし祝日の場合は翌日）
　　年末年始（12 月 29 日～1 月３日）
【入館料】　高校生まで無料
　　個人　学生 140 円 / 一般 300 円
　　団体（20 名以上）学生 70 円 / 一般 140 円

障害者手帳などの交付を受けている方及び介護サービス事業などで入館される場合は、入館料が無料になります。

第 85 回企画展「馬と農民（仮称）」
開催期間　令和３年３月２日～７月３１日

令和2年度企画展レポート

第 83 回　消えゆく茅葺き民家『直家』『曲り家』

～写真と古民家模型で見る茅葺き民家～　　令和２年３月３日（日）～ ８月 19 日（水）

岩手県の茅葺き民家というと、家畜と一つの屋根の下で暮らした「南部曲り家」が良く知られています。

茅葺き民家はもともと直方体に屋根をかけた「直家（すごや）」が基本形で、「曲り家」は「直家」から発展したものです。

県内には、「直家」と「曲り家」が混在していますが、農業の近代化とともに茅葺き民家は急速に姿を消していきました。

今回の企画展では、今野幸正氏（茅葺き民家写真）、小田島清敏氏（古民家模型）及び齋藤敏子氏（押し花絵）の御協力をいただき、収蔵資料とともに展示することにより、現在では見ることが少なくなった茅葺き民家について考える機会としました。

「曲り家」滝沢市

「直家」一関市藤沢町

ヤドコバサミ

ヤドコバリ

第 84 回　普及員～戦後農業・農村の成長を支えた技術者たち～

令和２年８月 22 日（土）～令和３年１月 14 日（木）

敗戦直後の農村課題は、食糧の増産・確保と疲弊した農村の活性化でした。農林省は、昭和 23 年農業者が真に意義ある農業経営、農家生活が営めるよう援助するため、国と県による協同農業普及事業を発足させ、「農業改良普及員」、「生活改良普及員」が誕生し活動を開始しました。

昭和 24 年に創刊された月刊「農業普及」誌等の記録から、普及事業推進のため国や県の担当者、普及員が記録した内容を紹介し、当時の背景・活動の一端を振り返り、現在の農業技術、農村生活を知る機会としました。

月刊「農業普及」

緑の自転車と農業改良普及員

冷害克服指導班

指導資料

ミニ企画展示コーナーを開設

県民の皆様の作品が展示できる『ミニ企画展示コーナー』を開設しました。本年度は６回開催し来館者の皆様に作品を楽しんでいただきました。このコーナーは誰でも展示できますので是非ご利用下さい。

第１回「貝雛」2～4月

第２回「絵手紙」4～6月

第３回「つばきブローチ」6～8月

第４回「うちわ絵」7～9月

第５回「まゆ細工」8～10月

第６回「絵手紙」10～12月

博物館の収蔵品紹介コーナー　その2

扱箸（からはし）

稲の脱穀用の道具として１０世紀に中国から伝来したと言われています。

右の写真は、八幡平市（西根町）で明治期まで使われていたものです。鉄製で長さ４０㎝、使い方は右下の写真のように一端を木などに刺して固定し棒の間に稲穂をはさみ手前に引いて籾を落とします。

初期の頃の扱箸は、長さ４５～６０㎝の竹を二つに割ったものです。

江戸時代中期（元禄年間）に千歯扱（せんばこき）が開発されてからは、扱箸は使われなくなります。

２本の鉄の棒、どう使ったのかな？

稲穂をはさみ引いて使います。

初期の頃の竹製の扱箸

千歯扱が開発され脱穀作業が便利に